

<平成 25 年度 第5回「自転車セミナー」>報告書

日 時：平成 26 年 1 月 16 日(木) 18:00~19:30

場 所：自転車総合ビル 6 階

(一財)日本自転車普及協会/東京都品川区上大崎 3-3-1)

講 師：遠藤 爾(株式会社大堀 環境事業部 エコドライブ推進担当)

テーマ：「自転車と自動車の共存・クルマから見る自転車の危険・
自転車から学ぶエコ安全運転テクニック」



<要旨>

近年の自転車ブームにおいて、スポーツライディングを楽しむ方が増えているという明るい側面だけではなく、老若男女問わず自転車を利用する方の自転車運転マナーの悪さ、自転車による交通事故が社会問題となっています。

今回のセミナーは、自転車主体の交通安全マナーの学習の場とするとともに、自動車運転者から見る「自転車の危険性」を、講師である遠藤氏が撮影したドライブレコーダーの動画に沿って、自転車運転者の危険な乗用を客観的に知り、自動車のドライバー、また自転車利用者のお互いの意識を改善し、快適で安全な走行空間の創出に繋げるセミナーです。



講演中の遠藤氏



講演中の会場の様子

本日のテーマ、自転車と自動車の共生・共存。遠藤氏は普段、自動車を運転する機会が多く、自転車と干渉する危険に遭遇する機会が多い。そこで、自動車運転者から見た自転車の危険性をお話いただきました。

自転車事故の統計を見ると、事故による怪我が人口 10 万人当たり 13~19 歳で 400 人、死亡事故が 65 以上で 3~4 人。表を見ると対象が子どもとお年寄りに数が多くみられる。

自転車運転者で自動車運転免許を取得しているかどうかによっても、安全運転の意識に大きな差がある。奈良県の自動車教習所で 62~80 歳の 29 名の方(内 8 名の方が運転免許ナシの方)を対象とし、自転車運転実験で、右折時の安全確認を行った際の首の角度を調査した。結果、運転免許アリの方は約 57 度、免許ナシの方は約 45 度だった。また、安全確認の回数は免許アリの方が 5 回に対し、免許ナシの方は 1 回だった。これは、免許を持っていない、また運転機会が減る年齢層と先ほどの事故統計が一致している。

【動画再生】「ヒヤリ！親子で飛び出し?!」

親子がそれぞれ自転車に乗り、母親があまり安全確認をしないまま道路に出てしまったため、子どもも後をついて道路に飛び出してしまっている。

【動画再生】「ヒヤリ！自転車が急に飛び出し横断」

国道において、推定 60 代の男性が自転車で危険運転。反対車線を走るトラックは、遠藤氏が乗車している車に対し、“前方の自転車を避けて（抜いて）走っていいよ”という合図をしてくれたようだが、前方を走る自転車の男性は自分に対するパッシングと勘違いし、道路を右折して行ってしまう。これに対し、トラックの運転手は驚いていた。

※車のパッシング、ハザードには明確な定義がないため、理解を間違えると危険を伴う可能性がある。

次は、遠藤氏の奥様が 19 歳の時に、実際に起こしてしまった事故のお話。

当時、自動車運転免許を取得したばかりだった奥様は、普通に道路を走行。自転車で歩道を走る男性がおり、突然車道に出てきた。時速 30km ほどで走行していた車と接触し、転倒。お互いにスピードが出ていなかったため、軽い接触ではあったが、男性は足を骨折。

事故の過失相殺は、自転車が 3、自動車が 7 で賠償金が 1,500 万円となった。

【動画再生】「ヒヤリ！右側通行・飛び出し横断」

学生 2 人が自転車で車道を右側走行。目の前の歩行者用の信号が青になったので、自転車の学生は右側通行からしていたところから、横断歩道を左折。車道の信号は当然赤だが、自動車運転者のブレーキが遅く、横断歩道上に進んでしまった。寸でのところで自転車の学生は通過したが、後方の子は危険を察知し、停止した。このような事故未遂も、自転車が右側通行をしなければ起こりえない。

【動画再生】「自転車右側通行事故 決定的瞬間」

学生 3 人が自転車で歩道を走行、横断歩道を渡ろうとしたところ、横断歩道に差し掛かったところで停車していた車がいきなり左折するために発進。自転車 2 台に接触。自転車に乗っていた学生 2 人は何事もなかったが、自転車運転者の女性の前方不注意は間違いない。ところが車を停車させることなくアクセルを踏み、接触した自転車の学生に唸り声を上げて走り去った。

この学生たちが走っていたのは歩道だが、これは右側走行をしていても同じことが起きる。

YouTube: <https://www.youtube.com/watch?feature=player%20detailpage&v=QhxDF-Gfxxw>

遠藤氏がタクシーに乗る際、必ず運転手の方に「どんな時にヒヤリとするか」を聞くそうだが、ほとんどの場合「自転車が一番怖い」と答えるそうだ。自転車と事故を起こした場合、自転車側も過失を取られることが多いとのこと。

次に、遠藤氏の義父が自転車走行中に事故に遭ったお話。

歩道のある道路から大きな車道へ出る T 字路。朝の通勤時間帯で、自動車は大きな道路へ合流する為に停車中。自転車に乗っていた遠藤氏の義父は、車が停車しているのを見て、自分が右折して車の前を通過しても大丈夫と判断し自転車を漕いだ。ところが、自動車運転者は右側の車の流れを確認し、左折開始してしまい、自転車と衝突。

ちなみに、遠藤氏の義父は、自動車運転免許を持っていないそうだ。

事故発生時、被害者である遠藤氏の義父は、車のボンネットに乗り上げ、車道に投げ出された。

遠藤氏の義父は、怪我による救急搬送により事故現場において証言が出来ず、自動車運転者の「自分は左も確認した。自転車が突っ込んで来た」との証言により、過失相殺は自動車 6、自転車 4 とされた。怪我をした遠藤氏の義父は、脚を骨折し、障害認定される後遺症を負った。後日、自動車運転者によくよく確認したところ、やはり左側は見えていなかったそうだ。

遠藤氏が自転車で右側通行をしている目線で、車道左車線に合流しようとしている自動車を観察したところ、自動車運転者は、右側から走ってくる車には当然注意を払っているが、左側への注意はかなり薄かったそうだ。つまり、車道を右側通行で自転車が走ってきた場合、合流しようとした車と接触事故が起きる可能性が非常に高く、しかも、遠藤氏の義父の事故のように、自転車運転者は車道に

倒れることがほとんどで、運が悪ければ、道路を走って来た車に轢かれ兼ねないのだ。そのくらい、車道の右側通行は危険であり、絶対に止めてほしいと遠藤氏。

【動画再生】

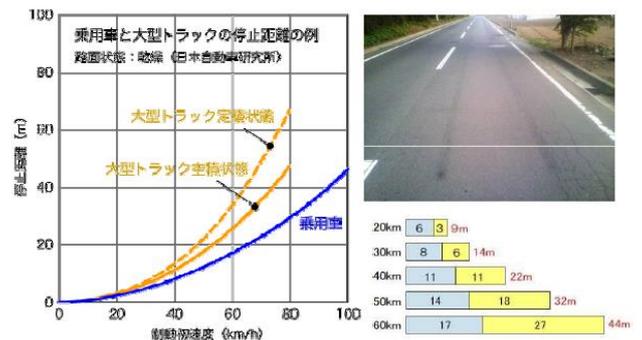
自転車で車道右側を走行している男性。信号無視で道路を横断し、反対車線の車は急ブレーキをかけ、寸でのところで停車。

動画のケースでは自動車が停まってくれたが、実際には自動車は急には止まらない。

右のグラフにもあるように、車はブレーキを踏んでからも数メートルは止まらない。乗用車で60km/hで走っている場合、ブレーキを掛けても17mは前進、大型トラックであれば20m以上停止できない。ブレーキ後、それだけの距離を車が移動してしまうことを考えると、信号無視などで飛び出せば、轢かれてしまうのだ。

自転車が車と共存し、事故を防ぎ、自己防衛をするためには、「自転車でも車道の右側通行を絶対にしない」ことがとても大切である。なぜなら、車はほとんど自転車を見ていない、そして車は急に止まらないからである。

クルマは急に止まらない・止められない



【パパと娘のドライブコント「心の運転免許・エコドライブ～ドッジボールとキャッチボール」】

パパである遠藤氏と娘さんの由実さんがドライブにお出かけ。

*さあ、ドライブに出発！編。

設定①は、ドライブに出掛けるというのにメールばかりしている娘にちょっとムツとしているパパ。エンジンを掛けっ放しで娘が出かける準備が出来るのを待っています。

設定②は、落ち着いて、楽しくドライブに出かける二人。お互いの準備が出来てからエンジンをかけて出発です。

この最初の行動だけで、ガソリンの使用料に差が出ます。エンジンの掛けっ放しは、1分間で2円以上の無駄に。エアコンを掛けると5円以上の無駄に。

*アクセル踏みっ放し編。

設定①は先ほど同様、いらいらしたパパがアクセル全開で車を飛ばしています。荒っぽい運転で、隣に乗っている娘は首がガクンガクン、ちっとも楽しくありません。パパは、左側を走る自転車を邪魔にしてすごい勢いで追い抜きます。そんなパパに娘もいらいら。「怒ってるパパは嫌だよ！しかもカッコ悪い！」

設定②は、やさしいパパ。ゆっくり発進、制限速度を守って走り、自転車が横を走っているのを見ても、もちろん追い抜いたりしません。「やさしい発進、制限速度を守る、アクセルを早めに戻すことでガソリン代の節約になるんだよ！」と娘。

*荷物の積みっ放しは勿体ない編。

ドライブ中、以前行ったキャンプの話になると、「全部(車内にキャンプグッズが)あるよ」とパパ。「それって、去年の夏から積みっ放し？」と娘。「そうそう、泊りに行く旅館でミニゴルフもできるよ！」とパパ。



「もしかして、ゴルフ道具も積みっ放し!？」と娘。いつもは電気の点けっ放しなど、節約にうるさいパパなのに、車に荷物を積みっ放しにして、ガソリン代を無駄にしているようです。

荷物 30kg の積みっ放しは、積載がない時に比べガソリン 1% を余計に消費するとのこと。これらを下せば、1% の節約になるようです。

こうして、小さなことの積み重ねでガソリンを節約できるエコドライブにつながります。…が、もっとエコなのは、近所であれば自動車ではなく自転車で出かけること！です。

遠藤氏がエコドライブに目覚めたきっかけは、仕事で乗る 4 t トラックでの移動。埼玉から金沢まで 500km、運転者によってガソリン代に 25% もの違が出ると分かった。当時、軽油が 150 円 / L と高騰しており、遠藤氏が走ると 60L、契約社員が同じ距離を走ると 80L。移動に掛かる時間は遠藤氏が 6 時間、契約社員は 5 時間ちょっとで到着するそうだが、燃料代を考慮すると契約社員に 1 時間余計に自給を払った方が安価で済むという結果に。これを受けて、遠藤氏はエコドライブの研究をすることになった。

エコドライブで大切なのは「早めのアクセルオフ」。赤信号でブレーキを踏むのではなく、黄信号でそっとアクセルをオフする。そっと、アクセルを踏む力を弱めると、燃料がカットされ節約になる。

左側を走る自転車を“邪魔だな”と感じて追い抜いても、結局信号で止まって、また追いつかれることを考えれば、アクセルオフをして、自転車を先に行かせれば、安全運転にもエコにもなる。

心に余裕を持って、自転車にも優しい運転を心がければ、それがエコドライブにも繋がる。

エコドライブの講習を受けた方からは“(目的地への)到着時間が遅くなるのではないか?”、“ゆっくり加速するのは、後ろの車に迷惑なのでは?”、“十分な車間距離を自分だけが空けるのは、エコドライブではなくエゴドライブでは?” などという声上がることも。しかし、遠藤氏は都内でエコドライブをしても、到着が遅くなることはほとんどないという。急いだところで、渋滞や信号での停止は同様にあるので、大した差は生まれまいそう。また、ゆっくりアクセルを踏んだ時と、ギュッと踏んで戻し、またアクセルを踏むという加速をしても、加速度にそれほどの違いはなく、後者は燃費を悪くするだけでなく事故の原因にもなる。そして、このゆっくりとアクセルを踏む時に、前方の車と十分な車間距離を確保することができ、交通安全に繋がる。

*車の運転も自転車も心がけ次第。心の運転技術・免許証を磨こう！

“信号が青になると後ろの車から 2,3 秒もたたないうちにビービーとクラクションがなる。余程急いでいるのか、性格なのか、イライラ交通状況が習慣づけたのか、それらを気にしていたら、こちらまで精神状態がおかしくなると思いながら、こちらの気持ちを変えることによって我慢することになっている。(中略)技術の免許証はあっても「心の免許証」まではくれないし、くれようもない。

(中略)心の免許証の条件は何か。(中略)相手の立場になる。親身になる。相手の身になる。／引用；「いきいき人生学」著：荒川和夫

【動画再生】

小学生の女の子が車道を自転車で走行。前方の路肩の駐車車両を前に止まって、後方を確認。後ろから来ていた車が停まって自転車を先に行かせてくれると、彼女はドライバーに向かってお辞儀をして走って行った。

遠藤氏の推測では、彼女の両親がこのような行動をしていて、それを彼女が見習っているのではないか。こういった礼儀やマナーは、親から子へ伝わるものである。やはり、親から子への自転車利用に関する教育は、とても大切である。